

授業科目名： 障害者教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石橋 裕子、井上 昌士 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>○テーマ 特別支援教育の基礎的理解</p> <p>○到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の理念とは何か、また、障害のある幼児、児童又は生徒の学校教育に関する歴史や思想において、特別支援教育の基本的な考え方がどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの特別支援教育及び特別支援学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。</li> <li>・現代の特別支援学校の教育に関する社会的・制度的・経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>戦後の「特殊教育」は、どんなに障害の重い子どもにも教育と発達を保障するため、徐々に拡大されていった。本講義では、まずその歴史や背景等について学ぶ。次に、2007（平成19）年度に「特殊教育」から転換された「特別支援教育」の社会的・制度的・経営的事項等について基礎的事項を学ぶ。最後に、障害者権利条約の批准を受け、インクルーシブ教育システムへの発展を目指している「特別支援教育」について、現状や最新の動向を学ぶ</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション～特別支援学校の先生になるということ（担当：石橋・井上）</p> <p>第2回：障害児教育の萌芽と戦後の特殊教育（担当：石橋）</p> <p>第3回：養護学校義務制実施と対象の拡大（担当：石橋）</p> <p>第4回：特殊教育から特別支援教育への転換（担当：石橋）</p> <p>第5回：学校教育法改定と特別支援教育制度の概要（担当：石橋）</p> <p>第6回：特別支援学校の目的と機能（担当：井上）</p> <p>第7回：特別支援学校の対象となる障害の種類と程度（担当：井上）</p> <p>第8回：特別支援学校の教育課程①～学習指導要領と自立活動（担当：井上）</p> <p>第9回：特別支援学校の教育課程②～知的障害特別支援学校の各教科と重複障害者等に関する教育課程の取扱い（担当：井上）</p> <p>第10回：特別支援学校の寄宿舎（担当：井上）</p> <p>第11回：通常学校における特別支援教育①特別支援学級（担当：石橋）</p>			

第12回：通常学校における特別支援教育②通常学級在籍児への対応（担当：石橋）

第13回：障害者権利条約とインクルーシブ教育（担当：石橋）

第14回：就学手続きと教育支援委員会（担当：井上）

第15回：特別支援教育の最新の動向（担当：石橋）

定期試験

テキスト

レジュメを使用する。

参考書・参考資料等

「特別支援学校幼稚部教育要領／小学部・中学部学習指導要領」文部科学省

「特別支援学校高等部学習指導要領」文部科学省

「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて」文部科学省

学生に対する評価

課題・小テスト20%、定期試験60%、発表・提出物20%

授業科目名： 知的障害者の心理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 呂 暁彤、吉野 浩之
			担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に 関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標 本科目では、知的障害を抱える児童・生徒の理解をテーマし、教育の場において知的障害者の 発達を支えるための知識と視点を学ぶ。 ・知的障害者の心理・病理・生理に関わる原因と対応のあり方の基本が理解できる。 ・知的障害の心理アセスメントと主な療育方法が理解できる。 ・知的障害の種類や心理特性を踏まえた支援を実践するための基本的な素養が身に付く。			
授業の概要 定型的な発達を踏まえ、知的障害者の個性や発達水準、関連する生理について、基礎的な事項 を学ぶ。その上で、知的障害の心理・病理特性を学び、その特性を踏まえて知的障害を有する 児童・生徒に理解していく。また知的障害のアセスメント方法を学習し、学習上・生活上の困 難に基づき、支援方法の在り方や療育機関での取り組みと地域資源の利用を理解する。			
授業計画 第1回：知的障害の定義：ICF/DSM/ICD（担当：吉野） 第2回：定型発達の乳児期・幼児期・学童期・青年期・成人期（担当：吉野） 第3回：知的障害：乳児期・幼児期・学童期・青年期・成人期（担当：吉野） 第4回：知的障害の発見と対応の現状（担当：吉野） 第5回：知的障害に関連する生理学の基礎（担当：吉野） 第6回：知的障害を併発する疾患と生活（担当：呂） 第7回：知的障害者心理学の視点（担当：吉野） 第8回：知的障害の心理の特性—知的能力と認知（担当：吉野） 第9回：知的障害の認知特性：ダウン症候群・ウイリアムズ症候群（担当：吉野） 第10回：知的障害の発達検査について（担当：吉野） 第11回：知的障害の知能検査について（担当：吉野） 第12回：知的障害の療育方法（担当：吉野） 第13回：知的障害に関わる対人関係スキル（担当：呂） 第14回：知的障害のインクルーシブ教育（担当：呂） 第15回：知的障害の地域生活（担当：呂） 定期試験			

**テキスト**

適宜資料を配布する。

**参考書・参考資料等**

- ・文部科学省「特別支援学校幼稚部教育要領／小学部・中学部学習指導要領／特別支援学校高等部学習指導要領」
- ・文部科学省「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて」
- ・知的障害の心理学—発達支援からの理解(小池敏英・北島善夫著、北大路書房)

**学生に対する評価**

筆記試験(60%)とレポート(40%)を総合して評価する。

授業科目名： 知的障害者の生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉野 浩之
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ： 知的障害のある幼児、児童又は生徒における生理及び病理の理解と障害の状態等の把握 到達目標： 1) 知的障害のある幼児、児童又は生徒の知的障害の要因となる病理面や生理面の特徴、併存症や合併症とそれらの相互作用について理解している。 2) 観察や検査を通して知的障害のある幼児、児童又は生徒一人一人の知的障害の状態や適応行動の困難さ及び認知の特性を把握することを理解している。 3) 生理・病理学的知識や疾患特徴について理解し、日常生活における配慮事項と適切な対処法についての基本的な内容を理解している。			
授業の概要 知的障害のある幼児、児童又は生徒の知的障害の要因となる病理面や生理面の特徴、併存症や合併症とそれらの相互作用について理解し、幼児、児童又は生徒一人一人の知的障害の状態や適応行動の困難さ及び認知の特性を理解する。障害の重度・重複化や脳機能不全に伴う多様な障害特性の顕在化に伴い、知的障害のある幼児、児童又は生徒における生理・病理学的知識や疾患特徴について理解し適切に対応することが求められることから、日常生活における配慮事項と適切な対処法についての基本的な内容を理解する。			
授業計画 第1回 脳のしくみと働き 第2回 認知機能と知能 第3回 知的障害の発生要因 第4回 胎生期・周産期・出生後の異常による知的障害 第5回 染色体異常による知的障害、代謝異常による知的障害 第6回 生後の発達と後天的障害による知的障害 第7回 知的障害と脳性麻痺、筋ジストロフィ 第8回 知的障害と精神障害、てんかん 第9回 知的障害と視覚障害、聴覚障害 第10回 重症心身障害児、医療的ケア 第11回 知的障害と自閉スペクトラム症			

第 12 回 知的障害と注意欠陥多動性障害

第 13 回 知的障害と学習障害

第 14 回 知的障害と発達性協調運動障害

第 15 回 知的障害の治療、療育、予後

定期試験

テキスト

テキストは指定しない。授業時にプリントおよび資料を毎回配布する。

参考書・参考資料等

知的障害児の心理・生理・病理[第2版]:エビデンスに基づく特別支援教育のために

知的障害教育スタンダード

学生に対する評価

定期試験70% 課題30%

授業科目名： 肢体不自由者の心理・ 生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉野 浩之
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に 関する科目（中心領域：肢）		
<p>授業のテーマ：</p> <p>肢体不自由のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理の理解と障害の状態等の把握 到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 肢体不自由の起因疾患と心理、生理の特性及びそれらの相互作用について理解し、説明できる。</li> <li>2) 行動像の観察及び生理心理学的検査を通して、肢体不自由者の状態や感覚機能の発達、知能の発達及び認知特性を把握する。</li> <li>3) 家庭や医療機関、福祉機関、労働等の関係機関との連携の重要性を理解し、支援につなげることができる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>肢体不自由の原因となる脳原性疾患、脊椎・脊髄疾患、神経・筋疾患や、濃厚な医療的ケアを必要とする子どもたち（超重度障害児）について概説するとともに、リハビリテーションの機能について詳述する。その上で、彼らに対する心理学的評価と発達支援、家族支援について講義する。各講義のあと、グループディスカッション等を通して、子どもの抱える生活場面での支援方法と、肢体不自由児教育における役割を相互に確認する。</p> <p>本授業は、専門的医学知見に関する部分について帝京科学大学医学教育センター教員に講義をお願いしている。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 肢体不自由の定義</p> <p>第2回：肢体不自由と運動機能の解剖学・生理学基礎</p> <p>第3回：脳性まひの生理的特徴・病理的特徴</p> <p>第4回：脊髄性、筋原性疾患（筋ジストロフィーを含む）の生理的特徴・病理的特徴</p> <p>第5回：二分脊椎、骨関節疾患の生理的特徴・病理的特徴</p> <p>第6回：ダウン症の整形外科的合併症の生理的特徴・病理的特徴</p> <p>第7回：リハビリテーションについて 身体論の観点から（1） PT、OTと機能</p> <p>第8回：リハビリテーションについて 身体論の観点から（2）</p> <p>第9回：肢体不自由と医療的リハビリテーション（教育・福祉との連携）</p> <p>第10回：肢体不自由の心理機能①（学習について）</p>			

第11回：肢体不自由の心理機能②（発達の運動論）

第12回：肢体不自由とコミュニケーション（ICTを含む）

第13回：医療的ケア

第14回：肢体不自由児を取り巻く大人の役割（家庭と医療機関との連携）

第15回：肢体不自由児・者への心理教育的支援－自立における問題・社会参加について

定期試験

テキスト

テキストは指定しない。授業時にプリントおよび資料を毎回配布する。

参考書・参考資料等

肢体不自由教育（特別支援教育をつなぐConnect & Connect 2）

肢体不自由児の医療・療育・教育

肢体不自由教育実践 授業力向上シリーズNo.12「肢体不自由のある児童生徒のための授業」  
を究める

学生に対する評価

定期試験70% 課題30%

授業科目名： 病弱者の心理・生理・ 病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉野 浩之 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：病）		
<p>授業のテーマ： 病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理の理解と障害の状態等の把握</p> <p>到達目標： 1) 病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の病気等（身体疾患や精神疾患）に関する病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解し、説明できる。 2) 幼児、児童又は生徒一人一人の病気や障害の状態、社会性の発達及び認知の特性を理解するとともに、家庭や学校間、関係機関との連携について理解する、支援につなげることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>病弱教育の対象となる頻度の高い疾患について、各疾患の生理・病理的特性、対象児童生徒の心理的特性を概説するとともに、求められる教育的配慮、医療・保健・福祉等、関係機関との連携の重要性について解説する。各講義のあと、グループディスカッション等を通して、子どもの抱える生活場面での支援方法と、病弱教育における役割を相互に確認する。</p> <p>本授業は、専門的医学知見に関する部分について帝京科学大学医学教育センター教員にゲストスピーカーとして講義をお願いしている。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、病弱・身体虚弱の定義と小児慢性特定疾患</p> <p>第2回：病弱・身体虚弱の子どもの教育の場</p> <p>第3回：人体の構造と生理の理解</p> <p>第4回：病弱児の心理的特性</p> <p>第5回：小児慢性疾患①（血液・循環器疾患）の理解と支援</p> <p>第6回：小児慢性疾患②（呼吸器・アレルギー疾患）の理解と支援</p> <p>第7回：小児慢性疾患③（内分泌疾患）の理解と支援</p> <p>第8回：小児慢性疾患④（消化器疾患）の理解と支援</p> <p>第9回：小児慢性疾患⑤（脳・神経・筋疾患）の理解と支援</p> <p>第10回：小児慢性疾患⑥（染色体または遺伝子に伴う症候群）の理解と支援</p> <p>第11回：小児慢性疾患⑦（悪性新生物）の理解と支援</p>			

第12回：発達障害の理解と支援

第13回：心身症の理解と支援

第14回：精神疾患の理解と支援

第15回：病気・障害の受容とセルフケア：教育・医療・保健・福祉との連携と支援

定期試験

テキスト

テキストは指定しない。授業時にプリントおよび資料を毎回配布する。

参考書・参考資料等

チームで育む病気の子ども[改訂版]:新しい病弱教育の理論と実践 北樹出版

最新学校保健第2版 ふくろう出版

特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理 ミネルヴァ書房

標準「病弱児の教育」【改訂版】一般社団法人日本育療学会(著)

学生に対する評価

定期試験70% 課題30%

授業科目名： 知的障害者教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐々木 由美子、井上 昌士 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知）		
<p>授業のテーマ： 知的障害児における教育課程編成の意義と方法、カリキュラム・マネジメント及び各教科等の配慮事項と授業設計</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 知的障害児を取り巻く環境と学びの場について説明できる。</li> <li>2) 知的障害における教育課程とカリキュラム・マネジメントについて理解し、説明できる。</li> <li>3) 知的障害児の障害特性を考慮し、個別の指導計画を作成するとともに、ICT及び教材・教具の工夫や各教科における学習指導案作成に取り組むことができる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>知的障害児の障害特性や心理発達の特性に基づいた教育課程、カリキュラム・マネジメント等について概説する。あわせて、自立活動、各教科の指導法、ICT活用等の教育技術等に関する基本について詳述する。第6回以降の授業では、講義のあと、グループディスカッション等を通して、子どもの抱える生活場面での支援方法と、知的障害教育における役割を相互に確認する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、教育要領・学習指導要領のポイント（担当：佐々木）</p> <p>第2回：知的障害児の障害特性と配慮（担当：佐々木）</p> <p>第3回：知的障害教育における教育課程編成と多様な教育の場（担当：佐々木）</p> <p>第4回：知的障害教育における指導の特徴（担当：佐々木）</p> <p>第5回：個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用（担当：井上）</p> <p>第6回：自立活動の指導（担当：井上）</p> <p>第7回：学習指導案の作成・活用（担当：佐々木）</p> <p>第8回：日常生活の指導（担当：井上）</p> <p>第9回：遊びの指導（担当：井上）</p> <p>第10回：生活単元学習の指導（担当：佐々木）</p> <p>第11回：作業学習の指導（担当：井上）</p> <p>第12回：国語科の指導（担当：井上）</p> <p>第13回：算数科の指導（担当：井上）</p>			

第14回：重度重複障害の理解と指導（担当：佐々木）

第15回：キャリア教育・進路指導（担当：佐々木）

定期試験

テキスト

テキストは指定しない。授業時にプリント及び資料を毎回配布する。

参考書・参考資料等

知的障害教育の基本と実践

はじめて学ぶ知的障害児の理解と指導

知的障害教育スタンダード

学生に対する評価

定期試験70% 課題30%

授業科目名： 肢体不自由者教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村上 祐介、 河野（松本）文子 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に 関する科目（中心科目：肢）		
授業のテーマ： 肢体不自由児における教育課程編成の意義と方法、カリキュラム・マネジメント及び各教科等の配慮 事項と授業設計 到達目標： 1) 肢体不自由教育の歴史的背景や肢体不自由児を取り巻く環境と学びの場について説明できる。 2) 肢体不自由児における教育課程とカリキュラム・マネジメントについて理解し、説明できる。 3) 肢体不自由児の障害特性を考慮し、個別の指導計画を作成するとともに、ICT及び教材・教具の 工夫や各教科における学習指導案作成に取り組むことができる。			
授業の概要 肢体不自由教育の歴史、肢体不自由児の障害特性や心理発達の特性に基づいた教育課程、カリ キュラム・マネジメント等について概説する。あわせて、自立活動、各教科の指導法、ICT活 用等の教育技術等に関する基本について詳述する。第5回以降の授業では、講義のあとグルー プディスカッション等を通して、子どもの抱える生活場面での支援方法と、肢体不自由教育に おける役割を相互に確認する。			
授業計画 第1回：ガイダンス、肢体不自由とは（担当：河野） 第2回：肢体不自由教育の歴史・制度（1）欧米の歴史と思想（担当：河野） 第3回：肢体不自由教育の歴史・制度（2）日本の歴史と肢体不自由教育の萌芽と成立 （担当：河野） 第4回：肢体不自由教育の歴史・制度（3）戦後の養護学校の整備と義務化（担当：河野） 第5回：肢体不自由児の授業設計と指導の実際（1）肢体不自由児の理解（担当：村上） 第6回：肢体不自由児の授業設計と指導の実際（2）個々の実態に応じた授業設計の考え方 （担当：河野） 第7回：肢体不自由児の授業設計と指導の実際（3）各教科の指導において必要な配慮事項 （担当：村上） 第8回：肢体不自由児の授業設計と指導の実際（4）個々の実態に応じた各教科の授業設計の実際 （担当：村上）			

第9回：肢体不自由児の授業設計と指導の実際（5）個々の実態に応じた自立活動の授業設計の実際  
（担当：河野）

第10回：特別支援学校（肢体不自由）における教育課程の編成の考え方と実際（担当：河野）

第11回：特別支援学校（肢体不自由）のカリキュラム・マネジメント（担当：河野）

第12回：小・中学校における肢体不自由教育の現状と教育課程の編成（担当：河野）

第13回：教師の新たな専門性としての協働モデルの構築（担当：河野）

第14回：インクルーシブ教育システムと特別支援学校（肢体不自由）の使命（担当：河野）

第15回：肢体不自由教育における今日的課題と展望のリフレクション（担当：河野）

定期試験

テキスト

テキストは指定しない。授業時にプリントおよび資料を配布する。

参考書・参考資料等

肢体不自由教育（特別支援教育をつなぐ Connect & Connect 2）

よくわかる肢体不自由教育〔第2版〕

新時代を生きる力を育む 肢体不自由のある子のウェルビーイング教育・支援実践

学生に対する評価

定期試験70% 課題30%

授業科目名： 病弱者教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 細谷 忠司 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に 関する科目（中心領域：病）		
<p>授業のテーマ：</p> <p>病弱児（身体虚弱児を含む）における教育課程編成の意義と方法、カリキュラム・マネジメント及び各教科等の配慮事項と授業設計</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病弱教育の歴史的背景や病弱児を取り巻く環境と学びの場について説明できる。</li> <li>2) 病弱児における教育課程とカリキュラム・マネジメントについて理解し、説明できる。</li> <li>3) 病弱児の障害特性を考慮し、個別の指導計画を作成するとともに、ICT及び教材・教具の工夫や学習指導案作成に取り組むことができる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>病弱教育の歴史、病弱児の生理・病理的特性や心理発達の特性に基づいた教育課程、カリキュラム・マネジメント等について概説する。あわせて、自立活動、各教科の指導法、ICT活用等の教育技術等に関する基本について詳述する。第8回以降の授業では、講義のあと、グループディスカッション等を通して、子どもの抱える生活場面での支援方法と、病弱教育における役割を相互に確認する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、病弱・身体虚弱と学習上・生活上の困難</p> <p>第2回：病弱教育の歴史</p> <p>第3回：病弱教育の制度</p> <p>第4回：学びの場と教育形態</p> <p>第5回：病弱児の心理</p> <p>第6回：主な病気の概要と教育支援</p> <p>第7回：教育課程の変遷</p> <p>第8回：各教科の指導</p> <p>第9回：自立活動の指導</p> <p>第10回：病弱教育における情報化</p> <p>第11回：病弱児とキャリア教育</p> <p>第12回：病弱児と医療的ケア</p> <p>第13回：関係機関との連携</p>			

第14回：病弱児への復学支援の実際

第15回：通常の学級に在籍する病弱児への配慮

定期試験

テキスト

テキストは指定しない。授業時にプリントおよび資料を配布する。

参考書・参考資料等

特別支援学校学習指導要領等を踏まえた病気の子どものための教育必携 ジアース教育新社  
標準「病弱児の教育」【改訂版】一般社団法人日本育療学会(著)

チームで育む病気の子ども[改訂版]:新しい病弱教育の理論と実践 北樹出版

学生に対する評価

定期試験70% 課題30%

授業科目名： 障害者教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石橋 裕子、呂 晓彤 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知、含む領域：病）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>○テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校、中学校、高等学校、特別支援学校における教育課程の原理および特質について理解を深める。</li> <li>・児童生徒の発達段階、障害の特性、地域及び学校の実態に即した教育課程編成に関する知識を習得する。</li> <li>・特別支援教育におけるカリキュラム・マネジメントの考え方について、近年の動向を踏まえながら理解を深める。</li> <li>・特別支援教育における教育方法、児童生徒の発達段階、障害の特性、地域及び学校の実態に即した教育課程に基づく授業づくりの原理、実際に関する理解を深める。</li> </ul> <p>○到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報をもとに論理的・批判的に考察することの重要性が説明できる。</li> <li>・事象を注意深く観察して、解決すべき問題を認識できる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>知的障害特別支援学校を中心として知的障害教育における教育課程の基盤である原理や特徴について学ぶ。その上で発達段階、地域及び学校の実態に即した教育課程に基づく教育方法、特に、授業づくりの原理・特徴を学ぶ。さらに、近年の知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメントの動向、教員やその他の職種の役割、個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成と、医療・福祉・労働機関等関係機関との連携等の専門性について検討の機会を設ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス；授業の進め方、特別支援教育に係る教育課程に関する基本的概念、用語概説（担当：石橋）</p> <p>第2回：教育課程に関する法令・制度；学校教育法、学習指導要領等教育課程に関する法令・制度（担当：石橋）</p> <p>第3回：教育課程編成の原理；教育目標、学校目標との関連、疾患への配慮等（担当：石橋）</p> <p>第4回：特別支援学校学習指導要領と小学校・中学校・高等学校学習指導要領；特別支援学校と小学校・中学校・高等学校の学習指導要領の特性と教育課程との関連（担当：石橋）</p>			

<p>第5回：特別支援教育における「社会に開かれた教育課程」と特色ある教育活動；教育課程編成のポイント（担当：呂）</p> <p>第6回：児童生徒の発達特性と領域指導における授業づくり（ICTを含む）①；国語、算数、数学等の授業づくり（担当：石橋）</p> <p>第7回：児童生徒の発達特性と領域指導における授業づくり（ICTを含む）②；特別活動、総合的な学習の時間、自立活動の授業づくり（担当：呂）</p> <p>第8回：児童生徒の各教科等を合わせた指導における授業づくり（ICTを含む）①；日常生活の指導、遊びの指導（担当：呂）</p> <p>第9回：児童生徒の各教科等を合わせた指導における授業づくり（ICTを含む）②；生活単元学習、自立活動、作業学習（担当：呂）</p> <p>第10回：特別支援学級における教育課程と授業実践（ICT含む）；特別支援学級の教育課程編成のポイント（担当：石橋）</p> <p>第11回：通級による指導における教育課程と授業実践（ICT含む）；通級による指導の教育課程編成のポイント（担当：石橋）</p> <p>第12回：訪問教育における教育課程と授業実践（ICT含む）；重症心身障害児・医療的ケア児等の支援を含む訪問教育の教育課程編成のポイント（担当：呂）</p> <p>第13回：特別支援教育におけるカリキュラム・マネジメント；カリキュラム・マネジメント・デザイン、ICT活用を含むポイント（担当：石橋）</p> <p>第14回：個別の教育支援計画と個別の指導計画；作成のポイント、医療・福祉・労働機関等関係機関との連携（担当：石橋）</p> <p>第15回：授業総括；特別支援教育における教育課程の意義と役割（担当：石橋）</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>「特別支援学校幼稚部教育要領・学習指導要領 解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）」 文部科学省</p> <p>「特別支援学校学習指導要領 解説 総則等編（高等部）」文部科学省</p> <p>「特別支援学校教育要領・学習指導要領 解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」 文部科学省</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「幼稚園教育要領」文部科学省</p> <p>「小学校・中学校・高等学校学習指導要領」文部科学省</p> <p>柳本雄二編著「特別支援教育 第3版」福村出版</p> <p>岐阜大学教育学部編「特別支援教育を学ぶ 第3版」ナカニシヤ出版</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験80%、発表・提出物20%</p>

授業科目名： 重複障害教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 由谷 るみ子 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：重複）		
授業のテーマ及び到達目標 〈テーマ〉 特別支援学校教育要領・学習指導要領を基準として特別支援学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントについて理解する。 〈到達目標〉 ・重度重複障害の多様な障害特性（心理・生理・病理）について理解する。 ・特別支援学校学習指導要領に規定する「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」の意義や各規定の適用を判断する際の基本的な考え方を理解する。 ・個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげることについてカリキュラム・マネジメントの側面の一つとして理解する。			
授業の概要 特別支援学校学習指導要領に規定する「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」について踏まえ、重複障害には多様な実態があり、心理・生理・病理の特性や心身の発達段階、学習の進度に合わせた教育課程や指導方法について講義と演習で学ぶ。			
授業計画 第1回 特別支援教育と障害の重度・重複化の進展 第2回 多様な重複障害（視覚、聴覚、知的、肢体不自由）と心理・生理・病理の関係 第3回 教育課程と学習指導要領の重複障害者等に関する取り扱いと多様な障害特性 第4回 個別の指導計画の作成方法とカリキュラム・マネジメントの関係 第5回 各教科の指導①学習上の困難と思考力、判断力、表現力等の育成 第6回 各教科の指導②知的障害と肢体不自由の重複障害 第7回 重複障害における自立活動の意義と取り扱い 第8回 自立活動を中心とした個別の指導計画の作成と評価 第9回 重複障害における自立活動の指導の指導①体の感覚 第10回 重複障害における自立活動の指導の指導②体の動き 第11回 重度・重複障害児と広がる医療的ケアと教育的意義 第12回 重度・重複障害児に必要な環境整備の配慮と日常生活指導の工夫 第13回 障害に合わせた教材・教具の工夫やICTの活用 第14回 自立活動の学習指導の演習 第15回 医療、福祉との協働と補装具等 定期試験			

テキスト

肢体不自由教育の基本と実践 宋戸和成 他 監修 慶応義塾大学出版会 (2023)

参考書・参考資料等

1. 特別支援学校幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領、高等部学習指導要領 文部科学省 著 海文堂出版 (2009)
2. 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編 文部科学省 著 教育出版 (2009)

学生に対する評価

試験の成績(80%)と発表・受講態度(20%)の合計を100%として評価する。

授業科目名： 発達障害者教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 呂 晓彤
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：発達、含む領域：重複）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害者の心理、生理及び病理の理解と障害の状態等を把握する。</li> <li>・発達障害者の教育課程の編成の意義、方法およびカリキュラム・マネジメントを理解する。</li> <li>・各教科等の指導上の工夫や配慮事項、自立活動の内容と関連させた教育実践の在り方について理解する。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害の特徴と感覚や認知・行動面の特性の把握、家庭や関係機関との連携について学ぶ。</li> <li>・特別支援学校教諭に求められる発達障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理と障害の重複した状態等を把握する。</li> <li>・特別の教育課程の編成の意義、方法及びカリキュラム・マネジメント、さらには各教科等の配慮事項及び授業設計について理解する。</li> <li>・通級指導教室や特別支援学級等での発達障害のある子どもへの指導について、教育課程やカリキュラム・マネジメントも含めて学ぶ。</li> <li>・発達障害や重複障害のある子どもへの具体的な授業を想定した学習指導案の作成や授業改善の視点について学ぶ。</li> </ul>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：特別ニーズのある子どもの多様性について</p> <p>第2回：インクルーシブ教育と合理的配慮</p> <p>第3回：身体障がい、知的障害と病弱</p> <p>第4回：発達障害に関する心理・生理・病理学的特徴の関係</p> <p>第5回：発達障害の範疇（学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム障害）</p> <p>第6回：発達障害者の認知面・行動面のアセスメント</p> <p>第7回：発達障害の教育課程</p> <p>第8回：発達障害と二次的障害</p> <p>第9回：発達障害と感覚過敏</p>			

第10回：発達障害と重複・合併障害における個別指導計画の意義

第11回：発達障害と重複・合併障害における個別指導計画の作成

第12回：発達障害者への指導・支援の実際①ーアセスメント

第13回：発達障害者への指導・支援の実際②ー指導方法

第14回：発達障害者への指導・支援の実際③ー臨床指導

第15回：発達障害者の特殊教育

定期試験

テキスト

適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

・文部科学省「特別支援学校幼稚部教育要領／小学部・中学部学習指導要領／特別支援学校高等部学習指導要領」

・文部科学省「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて」

・よくわかる発達障害（小野次郎・上野一彦・藤田継道編、ミネルヴァ書房、2010）

学生に対する評価

筆記試験（60%）とレポート（40%）を総合して評価する。

授業科目名： 視覚障害者教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 嶋 俊樹 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：視）		
授業のテーマ及び到達目標 ・視覚障害児・者の心理・生理・病理の基礎的な事項とそれらの相互作用について理解する。 ・特別支援学校（視覚障害）における教育課程の編成の特色とカリキュラム・マネジメントについて理解する。 ・各教科等の指導における配慮事項について理解する。 ・自立活動の特性を理解し、視覚補助に関する基礎的な技能を習得する。 ・家庭や医療、福祉機関等との連携の必要性を理解する。			
授業の概要 視覚障害児・者の心理・生理・病理の特徴に関して、アイマスク等を用いた疑似体験を通して体験的に学び、視覚障害教育における具体的な配慮事項についての理解を深める。特別支援学校における教育課程編成やカリキュラム・マネジメントの方法について学ぶ。全盲や弱視といった障害の状態に応じた教育の実際について、点字の読み書きや歩行指導など、それぞれに適した教材教具の活用等の具体的な支援について学ぶ。学びを通して、視覚障害教育の現状と課題について理解を深めるとともに共生社会の実現に向けた自分の考えをもつ。			
授業計画 第1回：視覚障害とは（障害の概要、視覚障害者の歴史、視覚障害児・者の教育の場） 第2回：視覚障害児・者の心理・生理・病理の特徴① 視機能と主な眼疾患、認知の特性 第3回：視覚障害児・者の心理・生理・病理の特徴② 視覚障害による制限（アイマスク体験） 第4回：特別支援学校（視覚障害）における教育課程の編成方法とカリキュラム・マネジメント 第5回：視覚障害の程度や発達段階等を踏まえた各教科の指導の基本と配慮事項 第6回：自立活動の指導と個別の指導計画 第7回：点字の概要と歴史、視覚障害者の生活と点字 第8回：点字表記法、点字の読み書き実習 第9回：歩行指導 第10回：視覚障害の状態に応じた視覚補助具・ICT及び触覚教材等の活用① 全盲児の指導			

第11回：視覚障害の状態に応じた視覚補助具・ICT及び触覚教材等の活用②弱視児の指導  
第12回：自立活動及び自立活動の指導との関連を踏まえた各教科の学習指導案の検討  
第13回：視覚障害児・者のスポーツ・文化  
第14回：キャリア教育・進路指導  
第15回：家庭や医療機関との連携、共生社会の実現に向けた課題  
定期試験は実施しない

テキスト

特に指定なし。授業時に資料を配布する。

参考書・参考資料等

「新・視覚障害教育入門」(青柳まゆみ・鳥山由子、ジアース教育新社)

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示、文部科学省)

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)(平成30年3月、文部科学省)

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)(平成30年3月、文部科学省)

学生に対する評価

レポート試験(80%)、各回の授業でのリフレクションペーパー・小レポート(20%)

授業科目名： 聴覚障害者教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長南 浩人、中島 幸則 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：聴）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 聴覚障害のある幼児、児童又は生徒の聴覚器官の病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解し、説明できる。</li> <li>2. 聴覚障害児の発達の関係を理解し、説明できる。</li> <li>3. 聴覚障害児の発達を測る評価法について理解し、実施できる。</li> <li>4. 聴覚障害児の教育課程や指導計画と指導法及びカリキュラムマネジメントについて、特別支援学校教育要領・学習指導要領を基準として理解、説明できる。</li> <li>5. 聴覚障害児を持つ家庭や関係機関との連携について理解し、説明できる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>発達早期に聴覚障害を有した場合、音声や環境音が聞こえない又は聞こえにくいという情報入力の困難が乳幼児期から生じ、これは精神発達の諸側面にも影響を与えていると言われています。特に言語発達との関係は深く、具体的には話し言葉の獲得困難とこれから生じる書きことばの習得の問題、さらには論理的思考、想像力等の高次認知活動の発達に及び、ひいては学力遅滞を引き起こすことが知られています。このことは「9歳の壁」ということばに象徴され、聴覚障害児教育では、子どもたちに9歳の壁を越えさせることが目標とされました。</p> <p>本講義では、聴覚障害児の言語発達遅滞の要因を聴覚の生理面と病理面および社会的環境面を関連付けて解説し、このことと言語や認知発達との関連に触れ、加えて学力遅滞のメカニズムを論じます。法さらには、社会性の発達や指導に話しを広げ、聴覚障害児の発達全般を解説します。その際に聴覚障害児の理解に欠かせない聴覚、言語、認知に関する検査法を紹介し、聴覚障害児に対するアセスメント法の理解を深めます。</p> <p>以上を通して聴覚障害児の精神発達を中心とした育ちの概要を理解した後に、あるいは並行して学校現場で行われている指導にも触れ、これを教育課程、指導計画、指導法の視点から論じ、特に発音・発語指導法、聴覚学習指導法、教科指導法、生活指導法については詳述します。また聴覚障害児教育の現場では、教科指導場面のような意図的指導場面のみならず、日常生</p>			

活場面での会話を通じた教育、いわゆる非意図的な偶発学習を重視し、これらの指導を具現化する教育の場についても考察を加えます。そのためには、家庭や関係機関との連携は欠かせず、この実際を取りあげます。

以上の内容の学びにより、聴覚障害児の能力を引き出す方法を理解し、「9歳の壁」を越えさせるための教育のあり方を考える力を養います。

#### 授業計画

- 第1回：ガイダンス（聴覚障害児の発達課題）（担当：長南）
- 第2回：聴覚障害児の生理、心理、病理（聴覚器官、障害分類）（担当：長南）
- 第3回：聴覚障害児の言語発達と評価（担当：長南）
- 第4回：聴覚障害児の教科指導法と教育課程（担当：長南）
- 第5回：聴覚障害児の言語指導法（担当：長南）
- 第6回：聴覚障害児の読み書きの発達と指導（担当：長南）
- 第7回：聴覚障害児の道徳性と社会性の発達と指導（担当：長南）
- 第8回：聴覚障害児のコミュニケーションの実際と課題（担当：長南）
- 第9回：聴覚障害児のコミュニケーション手段の実際（担当：長南）
- 第10回：聴覚障害児のコミュニケーション手段の指導法（担当：長南）
- 第11回：聴覚障害児の運動機能の発達（担当：中島）
- 第12回：聴覚障害児の体育指導法（担当：中島）
- 第13回：聴覚障害児の自立活動における指導（担当：長南）
- 第14回：個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成と利用（担当：長南）
- 第15回：聴覚障害児教育の今日的課題の展望（担当：長南）

#### 定期試験

#### テキスト

『言語・思考・感性の発達から見た聴覚障害児の指導法』長南浩人(2022)学苑社

#### 参考書・参考資料等

『聴覚障害児教育のこれまでとこれから』脇中起余子(2009)北大路書房

#### 学生に対する評価

1. 成績評価は、期末テスト等の課題やリアクションペーパー、授業中の発言で説明してもらうことを求め、期末テスト等の課題80%、リアクションペーパーや発言20%の比率で行います。
2. 成績評価は、帝京科学大学の成績評価の規準に準拠します。
3. 成績評価は、原則として授業時間の3分の2以上の出席を要件とします。